

ゲームによる本の紹介事例_「ストーリーライン」

「ストーリーライン」、遊んでみていかがでしたでしょうか。

久しぶりに、昔話、おとぎ話を読んでみたくなったのではないのでしょうか。

① [『夜ふけに読みたい不思議なイギリスのおとぎ話』FLORA・ANNIE・STEEL/\[再話\]
平凡社 2019.3](#)

例えば、ジャックと豆の木も収録しているこちら『夜ふけに読みたい不思議なイギリスのおとぎ話』はいかがでしょう。子供のころに読んで知っているはずの物語も、大人になって読むとまた新たな発見があって面白いものです。「ノロウェイの黒牛」「妖精王の黒い塔」など、あまりなじみのないものも多く収録されていますので、新鮮味もあります。

② [『世界魔法道具の大図鑑』山崎 瑞花/訳 西村書店 2020.3](#)

「ストーリーライン」には、いろんな小道具が出てきました。魔法の力が込められた不思議な道具ですね。『世界魔法道具の大図鑑』は長靴、杖、剣、豎琴、笛、鏡、ランプなどなど、世界中の物語に登場する不思議な道具をまとめて紹介しています。

③ [『だれが幸運をつかむのか』山 泰幸/著 筑摩書房 2015.12](#)

「ストーリーライン」は、昔話やおとぎ話の「よくあるパターン」を利用して作られているゲームです。登場人物や場所、小道具などを入れ替えても成立するように、物語の骨格をナレーターカードで作って、ハッピーエンドへと導いています。そういう物語のパターン、構造などを比較分析する、比較民話学というものがあります。この『だれが幸運をつかむのか』は、その比較民話学の手法を使って、ハッピーエンドの仕組みを解き明かしていきます。幸せになりたい私たちにも、何かヒントがあるかもしれません。

④ [『たった40分で誰でも必ず小説が書ける超ショートショート講座』田丸 雅智/著
キノブックス 2015.12](#)

最後はこちら『たった40分で誰でも必ず小説が書ける超ショートショート講座』です。先ほど「ストーリーライン」を遊んだことで、たいへんユニークで面白い物語ができました。ちょっと自分でも物語、小説などを作りたいと思った方もおられるのではないのでしょうか。この本は、そんな方にうってつけ。いくつかのキーワードを元に、4、5行の超ショートショート小説から、数ページの短編小説まで、書いてみるコツを紹介しています。今日のゲームをきっかけにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。